

**平成27年度「福井ふるさと元気宣言」推進に係る政策合意の実施結果**  
(平成28年3月末現在)

「福井ふるさと元気宣言」の4つのビジョンを着実に実現していくため、平成27年7月に知事と合意した「政策合意」の実施結果について、次のとおり報告します。

平成28年3月

福井県教育長 森近 悦治

項 目	実 施 結 果
<p>1 福井から人材育成</p> <p>◇ 「ふるさと」を思うグローバル人材教育【部局連携】</p> <p>○ 「ふるさと教育」の充実</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・昨年から実施している<b>本県ゆかりの企業経営者等による授業を全ての高校に拡大</b>していきます。 (平成26年度 13校)</li> </ul> <p style="text-align: right;">20校</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・中学・高校で福井にゆかりのある100人の先人について学ぶ教材を作成し、授業等で活用します。</li> </ul> <ul style="list-style-type: none"> <li>・白川文字学を活用した漢字教育を推進する<b>漢字指導者</b>などを増やすとともに、漢字能力検定協会等と連携し、漢字教育の福井モデルを全国に普及します。(平成26年度 137人)</li> </ul> <p style="text-align: right;">200人</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・立命館大学等の研究機関との共同研究や資料の相互利用を進めるとともに、全国の研究者によるリレー講座の開催などにより福井発の文字学研究を進めます。</li> </ul>	<p>[成果等] 目標を達成しました。</p> <hr/> <p>本県ゆかりの企業経営者等14人が先生となり、21高校において、グローバル社会における福井の未来、観光など地域の宝を磨く努力の重要性、リーダーとしての役割などについて授業を行い、高校生が将来の福井や自分の生き方を考える機会を拡充しました。</p> <p style="text-align: right;">21校</p> <p>日本史の教員が素材を収集し、福井にゆかりのある100人の先人について学ぶ教材を作成しました。平成28年度より、中学校・高校の授業等で活用します。</p> <p>「福井の漢字教育公開講座」として、著名人を招いた講演会や模擬授業等を5回開催し、新たに各校の漢字教育を推進している教員63名を漢字教育指導者に認定しました。</p> <p style="text-align: right;">200人</p> <p>立命館大学等と連携し、福井県編集の副読本を活用した公開模擬授業を全国各地で開催するとともに、白川文字学を活かした漢字教育の効果について共同研究・調査を実施しました。また、第3回白川静漢字教育賞には、これまでで最多の69件の応募がありました。</p>

項 目	実 施 結 果
<p>○外国に出せる外国語教育</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・中学生・高校生はA L Tの活用、教員の研修による授業改善等により、英語力の向上を図ります。</li> <li>・中学校のA L Tを増員し、また、授業公開などA L Tの研修を充実して、英語の授業改善を進めます。</li> </ul> <p>英検 3 級相当以上を取得した中学生 (平成 26 年度 38%)</p> <p style="text-align: right;"><b>41%</b></p> <p>英検準 2 級相当以上を取得した高校生 (平成 26 年度 35%)</p> <p style="text-align: right;"><b>39%</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・中学・高校の英語教員が外部検定試験を活用し、英語力の向上を図ります。</li> <li>・小学校全教員がラジオや映画等を活用し、自ら英語を学びます。</li> <li>・中学校で、地域の観光地などふるさと福井のよさを英語で表現した P R カードを作成し、修学旅行等で国内外へ発信します。</li> <li>・高校入試における英語スピーキング・テストの導入に向けて検討を進めます。</li> <li>・高校と大学が連携して中国語や中国経済等の授業を行うなど、中国語教育を進めます。</li> </ul>	<p>[成果等] 目標を達成しました。</p> <p>中学校のA L Tを10名増員し、生徒とA L Tが交流する時間を拡充しました。また、新たにA L Tに対する日本語講座やA L Tによる授業公開・事後検討会を行うなどA L Tの活用を進めました。</p> <p style="text-align: right;">英検 3 級相当以上を取得した中学生</p> <p style="text-align: right;"><b>42.7%</b></p> <p style="text-align: right;">英検準 2 級相当以上を取得した高校生</p> <p style="text-align: right;"><b>42.5%</b></p> <p>中学校・高校の英語教員を対象に「話す」「書く」ことを重視した指導や評価方法について研修を実施しました。また、中学校・高校の英語教員が外部検定試験を受検し、英語力の向上に努めました。</p> <p>小学校における英語教科化に備え、外国語大学と共同して教材等を開発し、英語教育の中核となる小学校教員向けの研修を実施しました。さらに、小学校全教員がラジオやテレビ等の語学講座を活用して英語を学び始めました。</p> <p>中学生が、ふるさと福井の特産物や観光名所等を英語で紹介するP Rカードを作成し、授業で活用しました。また、中学校8校において、修学旅行などの機会を活用し、福井のよさを英語で国内外に発信しました。</p> <p>国の大学入試改革の動向や他県の状況等について情報収集し、高校入試における英語スピーキング・テストの導入について検討を進めました。</p> <p>足羽高校で関西大学の教員が中国語の授業を行うとともに、新たに県立大学と連携して、大学教員が高校で中国語や中国語経済等の授業を行うことや、高校生が大学で授業を受けることなど、中国語教育を充実するための準備を進めました。</p>

項目	実施結果
<p>○福井から世界に挑戦</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・「サイエンス・国際コース（仮称）」の県立高校（嶺南）での設置に向けて、設置校・設置時期およびコースの概要を決定します。</li> </ul>	<p>〔成果等〕 引き続き実施します。</p> <p>新たな教育振興基本計画において、二州地区の普通科系高校にサイエンスや国際に関する新しい学科の開設を検討することとしました。引き続き、設置校・設置時期および学科内容について検討を進めます。</p>
<p>◇ 「福井型18年教育」の進化【部局連携】</p> <p>○新たな教育振興基本計画の策定</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・これからの教育の基本方針と今後5年間の具体的な施策をまとめた新たな教育振興基本計画を年内に策定します。</li> </ul>	<p>〔成果等〕 目標を達成しました。</p> <p>知事の定める本県の教育政策の目標や基本的な方針をまとめた「教育に関する大綱」を10月に策定しました。</p> <p>大綱において示された方針に沿って、具体的な施策をまとめた5年間の行動計画として、新たな「福井県教育振興基本計画」を12月に策定しました。</p> <p>計画に基づく施策を着実に実行し、全国トップクラスの福井の教育をさらに高いレベルに引き上げます。</p>
<p>○幼児教育の充実</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・5歳児から小学校1年生をつなぐ「福井県保幼小接続カリキュラム」を全ての小学校区で実践していくため、市町幼児教育アドバイザー、園内リーダーを養成します。</li> </ul>	<p>〔成果等〕 目標を達成しました。</p> <p>福井県独自の保幼小接続カリキュラムの核となる子どもたちの「学びに向かう力」の育成を実践するため、市町において域内の園への助言を行う人材を育成する「市町幼児教育アドバイザー養成研修」、園内研修を活性化し園の中核となる人材を育成する「園内リーダー養成研修」を今年度から始めました。</p> <p>公私園種の枠を越えた合同研修を行い、最終回の幼児教育フォーラム（650名参加）において、成果を発表しました。市町幼児教育アドバイザー29名、園内リーダー148名を認定しました。</p>
<p>○「学力・体力」伸ばし「社会力」</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・全国と県の学力調査を早期に分析し、課題に対応した指導事例集を作成して、授業改善を進めます。</li> <li>・地域の祭りへの参加など体験学習の好事例について調査・研究し、社会に主体的に参画する子どもたちを育成します。</li> <li>・県立高校の全教員に公職選挙法などの正しい知識を身につけるための研修会を実施するとともに、生徒に対して社会人としての自覚や意思決定をする力を身につけるための授業改善を行います。</li> </ul>	<p>〔成果等〕 目標を達成しました。</p> <p>学力調査結果を昨年度より一か月早く分析し、課題のあった個所や間違えた理由がわかる参考資料を作成し、授業改善を進めました。</p> <p>体験学習を行うことで成果をあげている小・中学校28校を挙げ、学校や児童・生徒の地域への働きかけなど要因を探り、平成28年度にモデル校に指定して地域と連携した提案型の体験学習を進める準備を行いました。</p> <p>県立学校の管理職と公民科教員を中心に公職選挙法などについての研修を実施し、さらに、各学校で全教職員を対象に研修を行いました。全県立高校で選挙管理委員会による出前授業を実施するとともに、国が作成した副教材を活用し、選挙や政治のしくみを学ぶ授業を行いました。また、県立学校17校で模擬選挙を実施し、5校で実際の投票用紙や投票箱を活用した生徒会選挙を行いました。</p>

項 目	実 施 結 果
<p>○児童・生徒はみんな笑顔に</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>発達障害等のある児童生徒への継続的な支援のために、新たに校種間の連携会議を地区別に開催します。</li> <li>作業学習を充実し、学校ごとに特色ある新たな商品開発に取り組み、<b>展示会や販売会を拡大</b>します。</li> </ul> <p>特別支援学校の展示会・販売会実施回数（平成 26 年度 60 回）</p> <p style="text-align: right;">75 回</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>児童生徒の自己チェックによるいじめの早期発見や「サポート班」の組織的な対応による早期解消などいじめ対策を進めます。</li> <li>教員やスクールカウンセラー等で構成する「支援チーム」を組織して、不登校への初期対応を徹底します。</li> </ul>	<p>〔成果等〕 目標を達成しました。</p> <p>県内 6 地区で幼稚園・保育園と小・中学校の連携について、4 地区で中学校と高校の連携会議を開催し、障害のある全ての児童・生徒に対する個別の支援計画の策定と校種間の引き継ぎを徹底しました。</p> <p>地域の企業等の協力を得て商品開発（奥越：パン、嶺北：焼き菓子、嶺南西：鯖のへしこ、南越：手漉き和紙）に取り組みました。作業製品や児童生徒の作品の展示会や販売会を県内 85 カ所で開催しました</p> <p style="text-align: right;">85 回</p> <p>全学校の「いじめ対策委員会」において、いじめ防止等の指導を行うとともに、小・中学校管理職を対象とした研修を年 2 回、生徒指導主事を対象とした研修を年 1 回実施し、小・中学校の連携強化など未然防止対策を徹底しました。いじめが起きた場合には、速やかに「いじめ対応サポート班」を組織して対応し、早期解消を図りました。</p> <p>小・中学校の生徒指導主事を対象に、スクールソーシャルワーカーの有効な活用法についての研修会を実施し、不登校児童・生徒に対する「支援チーム」による初期対応・自立支援の実効性を高めました。</p>

項 目	実 施 結 果
<p>○教員の授業力・指導力の向上</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・授業改善の研究やICT教材の開発、県外の研究者や退職教員の活用などの拠点として教育研究所の機能強化を検討します。</li> <li>・若手教員の通信研修に授業名人の動画を活用するなど、今年度から<b>本格的に通信研修</b>を進めます。</li> </ul> <p>教員の通信研修受講件数 (平成26年度 1,375件)</p> <p style="text-align: right;">2,000件</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・拠点校に整備するタブレットにより、授業改善を進めます。</li> </ul>	<p>[成果等] 目標を上回って達成しました。</p> <p>平成29年4月に予定する教育研究所の移転に伴う機能・体制の強化について検討しました。福井の教育の歴史や取組みを映像・展示で発信する教育博物館の整備、学力調査や大学入試等の研究と研究成果の研修への迅速な反映、教育相談に関する学校支援等の充実を進めます。</p> <p>教員が学校にいながら研修を受講できるようにするため、授業名人の授業映像を活用した講座など100本の通信研修講座を作成し、若手教員向けの研修において活用を進めました。また、初任者研修において、新たに教員自身の授業映像を活用した研修を実施しました。</p> <p style="text-align: right;">4,444件</p> <p>高校9校および特別支援学校2校に加え、新たに高志中学校にタブレット端末を導入し、フィールドワークやグループ学習における調査・資料作成に活用するなど、ICT機能を活用した授業改善の研究を進めました。</p>

項 目	実 施 結 果
<p><b>○高校の学力向上</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>各大学の入試問題の出題傾向や解法を熟知し、指導できる教員の養成を強化し、生徒の進学希望実現を支援します。</li> <li>県外トップ進学校の進学指導を調査・分析し、県内各高校の指導体制の強化や進学指導担当教員の指導力向上を進めます。</li> <li>進学目標の設定や進路実現を支援するため、大学生と高校生が、大学での学びや将来の夢などについて語る会を開催します。</li> </ul>	<p>[成果等] 引き続き実施します。</p> <p>各学校で大学入試問題を分析し、解答解説や学習アドバイスを作成しました。さらに、予備校から講師を招聘し、5教科の教員を対象とした研修会を計27回実施するなど、教員の受験指導力を強化しました。</p> <p>県外進学校の指導法の情報収集・分析を行うとともに、県立高校普通科の進学指導担当教員17名が先進指導事例を学び、勤務校の進学指導改善策を立案する研修会を3回開催するなど、教員の進学指導力を高めました。</p> <p>大学生による「卒業生と語る会」や大学教授等による授業を実施し、高校生の難関大学や地元大学への進学意欲を向上させました。</p> <p>様々な学力向上策を実施していますが、十分な成果が表れていないため、さらに教員の指導力を高めるよう、来年度から県独自試験の実施、県外進学校等からの情報収集・分析、早い時期からの進学指導などの施策を実施する準備を進めています。</p>
<p><b>○職業高校の新カリキュラム・産業教育プログラム</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>職業系高校の生徒などの資格取得の意欲の向上を図る福井フューチャーマイスター制度を企業の協力を得て創設します。</li> <li>資格試験の受検料の負担軽減について検討するなど、受検促進を図ります。</li> <li>若狭東高校において、薬用植物の産地化や植物工場など高度な施設園芸や6次産業化などに対応できる人材を育成します。</li> </ul>	<p>[成果等] 目標を達成しました。</p> <p>県内企業との制度検討会議や3,270社を対象としたアンケート調査により、県内産業界の意見を集約し全国で初めて職業系高校生の資格取得を総合的に支援する「福井フューチャーマイスター制度」を創設しました。</p> <p>併せて、資格試験の受検料支援制度を設けて、生徒の受検を促進しました。</p> <p>若狭東高校において、薬用植物を栽培し、それを活用した和菓子やお茶などの商品開発を行いました。</p> <p>また、校内の植物工場でレタスを栽培し、定期的に道の駅で販売するなど、栽培から加工・流通までを一体とした農業教育を進めました。</p>

項目	実施結果
<p>◇ 学校の再編・統合</p> <p>○県立高校の次なる再編に道筋</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・奥越・若狭・坂井に続く地域の高校再編と定時制課程の見直しに着手します。</li> </ul>	<p>〔成果等〕 引き続き実施します。</p> <hr/> <p>丹南地区と二州地区の高校再編については、具体的な協議は進められませんでした。今後、関係者の意見を聞くなど情報収集に努め、各地区に再編検討委員会を設置して検討を進めます。</p> <p>定時制課程は、夜間から昼間への移行について関係者への説明等を行い、平成29年度から夜間制の募集を停止（道守高校以外）し、昼間制の募集を開始することを決めました。</p>
<p>○小中学校の統合支援</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・統合する小・中学校と過疎地域等の小規模校への支援のあり方について検討し、学校再編支援制度をまとめます。</li> </ul>	<p>〔成果等〕 目標を達成しました。</p> <hr/> <p>統合する学校や過疎地域等で学ぶ子どもたちの学習面や生活面に支障が出ないように、統合予定の小・中学校に対する教職員の増配置を統合前後の2年間に拡充しました。</p> <p>これに伴い、平成28年度以降に統合を予定する4小学校に教職員を増配置する準備を進めています。</p>

項 目	実 施 結 果
<p><b>2 先進的な医療と福祉、健康長寿のふるさと貢献</b></p> <p><b>◇ 県民の健康サポート・システム【部局連携】</b></p> <p><b>○子どもの目と歯・生活の健康</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・全小中学校で目を休める時間を設けるほか、目の動きをスムーズにする運動を新たに始めます。</li> <li>・学校と家庭が一緒になって、近視予防につながる規則正しい生活の定着を図ります。</li> <li>・小学校1年生から4年生までの児童に「正しい歯みがき教室」を実施します。</li> <li>・1年生と4年生に対し歯の二次健診を実施するほか、口型模型を活用し、歯科医師会の協力の下、家庭と協力して正しい歯みがきの定着とむし歯治療を促進し、むし歯のない小学生を増やします。</li> </ul> <p>むし歯のない小学生の割合 (平成26年度 65.9%)</p> <p style="text-align: right;"><b>67%</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・子どもたちのSNSやメール、ゲーム等を使用する時間帯・1日の使用時間・使用方法に関する指針に基づき、適正利用を推進します。</li> <li>・県内の全ての高校において、生徒自らがスマホに依存しないルールづくりなどについて検討し、統一した行動につなげます。</li> </ul>	<p>[成果等] 目標を達成しました。</p> <hr/> <p>全小・中学校において目を休める「リフレッシュタイム」を設定するとともに、目の動きをスムーズにする「ビジョントレーニング」を実施しました。</p> <p>小学1、2年生等を対象に、目を大切にする生活チェック健康カードを配布し、近視を予防する生活習慣の定着を図りました。</p> <p>全小学校の1～4年生を対象に、歯垢染色剤を用いた歯みがき教室を実施しました。小学校1年生と4年生に対し口型模型を活用した正しい歯みがきの定着や歯科二次健診によるむし歯治療の勧奨を図り、児童の歯科治療率が上がりました。</p> <p style="text-align: right;"><b>68.4%</b></p> <p>SNSやメール、ゲーム等を使用する時間帯・1日の使用時間・使用方法に関する指針として「ふくいスマートルール」を策定しました。これに基づき、小・中学校および高校において、生徒自身がスマホなどの使い方のルールづくりを進めています。</p> <p>また、高校生自身が意見交換を行い、「ふくい高校生脱スマホサミット」において、脱スマホ共同宣言を採択し、統一した行動につなげています。</p>



項 目	実 施 結 果
<p>3 日本一の安心・安全（治安充実から治安万全へ）</p> <p>◇ 「安全・安心ふくい」確立プラン【部局連携】</p> <p>○子供を守る耐震化の促進</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・児童生徒の学習の場であり、地域住民の避難場所ともなる<b>学校施設の耐震化</b>や、天井等の落下防止対策を進め、安全・安心を確保します。</li> </ul> <p>学校の耐震化率（平成 26 年度 94%）</p> <p style="text-align: right;">100%</p>	<p>〔成果等〕 目標を達成しました。</p> <hr/> <p>小・中学校施設については、県独自の補助制度や国庫補助を活用した耐震補強工事を進めました。</p> <p>また、県立学校施設についても、計画的な耐震化や天井等の落下防止対策を進め、平成 27 年度中にすべての小・中学校、県立学校施設の耐震化が完了しました。</p> <p style="text-align: right;">100%</p>
<p>4 「農」・「林」・「漁」業を意欲と誇りの総合産業へ</p> <p>◇ 「ふくい食ブランド」を地産・外商【部局連携】</p> <p>○日本で一番おいしい学校給食</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・栄養教諭がプロの料理人等の協力を得て、地場産食材を使ったおいしいメニューを開発するほか、「食育の日」や「ふるさとの日」を中心に、学校給食で提供します。</li> <li>・調理方法や手順、味付け等、調理従事員の調理技術向上を図り、おいしい給食の実現を推進します。</li> <li>・学校給食調理コンテストを開催するとともに、全国レベルのコンテストにおいて上位入賞を目指すことにより、本県給食のおいしさのレベルアップを図ります。</li> <li>・新たに中学校版食育教材を作成・活用して、小学生から中学生に継続した食育を行い、食に関する知識の定着と食の選択能力の育成を図ります。</li> </ul>	<p>〔成果等〕 目標を達成しました。</p> <hr/> <p>地場産物利用拡大に向け、栄養教諭が生産者・流通関係者等と方策を協議し、地場産食材の供給体制を改善するとともに、11月には、県内小・中学校において、地場産100%和食給食を実施し、子どもたちが和食のよさや福井の食について理解を深めました。</p> <p>（地場産食材利用率 H26：40.9% → H27：43.5%）</p> <p>栄養教諭とプロの料理長等が共働して、地域の食材を活用した給食献立を開発し、学校給食に提供したほか、「給食週間」（1月）や「ふるさとの日」（2月）に県民に提供しました。</p> <p>栄養教諭等が子供と一緒にアイデアや調理を競う、学校給食調理コンテストを開催し、応募54献立をレシピ集にまとめて県内外に発信するとともに、優秀メニューを県内で販売しました。</p> <p>小学校版に加え、中学校版食育教材を作成し、小学生から中学生の発達段階に合わせた食育指導を実施しました。</p>

項 目	実 施 結 果
<p>5 高速交通時代にブランド・観光オンリーワン戦略</p> <p>◇ 観光フロンティア・福井【部局連携】</p> <p>○観光人材の育成</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・商業系高校全6校で新設した観光に関する授業において、地域の観光資源の調査・研究などのワークショップを通して、観光プランを発信します。</li> <li>・旅行者等の外部専門家による授業を行い、観光に関する興味・関心を高め、専門資格取得を支援します。</li> </ul>	<p>[成果等] 目標を達成しました。</p> <hr/> <p>商業系高校全6校に観光に関する学校設定科目を設置して、地域の魅力を発信するための授業を実施しました。</p> <p>フィールドワークを通じて生徒自身の企画による観光情報誌やPR動画、ポスターなどを作成し、全国観光プランコンテスト等を通じて発信しました。</p> <p>観光に関する専門的な内容や最新の情報を学ぶために、観光連盟、旅行事業者等の外部専門家を招き(計25回)、生徒の興味・関心を高めました。</p>

項 目	実 施 結 果
<p>6 国体の成功と「スポーツ福井」の実現、文化・芸術を身近に</p> <p>◇ 県民総参加の福井国体【部局連携】</p> <p>○競技力を高め「優勝」の実現</p> <p>・今年のと歌山国体で昨年の17位を上回る成績を確保するために、オリンピック経験者などの指導者から直接指導を受ける機会を充実します。</p> <p>国体総合成績（平成26年度 17位）</p> <p style="text-align: center;"><b>10位台</b></p> <p>・福井国体での総合優勝に向け、競技団体と一丸となって、人材の適材適所の配置など、競技力向上のための組織体制を充実強化します。</p> <p>・「スポジョブふくい」等で有力選手の確保を進めます。さらに、出身大学の練習参加など、個々の状況に応じた競技力向上への支援を行います。</p> <p>有力選手の確保人数 （平成26年度 48人）</p> <p style="text-align: center;"><b>60人</b></p> <p>・福井国体で中心となる中学3年生の優秀な選手が重点強化校等に進学しやすい環境を整えます。</p>	<p>[成果等] 目標を一部達成しませんでした。</p> <hr/> <p>オリンピック選手などを育てた実績のあるスーパーアドバイザー60名を派遣し、326回の実践指導を行うとともに、未普及競技のアーチェリーやカヌー競技に強化コーチを配置し、指導を強化しましたが、と歌山国体では天皇杯26位と昨年の17位から順位を下げました。</p> <p style="text-align: right;"><b>26位</b></p> <p>と歌山国体後、すべての競技団体と強化方針について協議し、競技団体ごとの課題と対策の見直しを進めました。また、県競技力向上対策本部と県体育協会の強化委員会を統合し、組織体制を強化しました。</p> <p>「スポジョブふくい」により、昨年の48名を上回る62名の有力選手を確保しました。出身大学など練習拠点への選手の移動費等の支援など、さらに競技力を高めるための支援を実施しています。</p> <p style="text-align: right;"><b>62人</b></p> <p>新たな推薦入試制度により、中学3年生の強化指定選手304名のうち184名が強化指定校に進学しました。また、県外からも優秀な選手72名が強化校に入学します。</p>

項 目	実 施 結 果
<p>◇ 「スポーツ福井」の実現 ○子どもから大人まで気軽にスポーツ</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・県民スポーツ祭に併せて、国体デモンストレーションスポーツなど気軽に参加できるスポーツイベントを開催します。</li> </ul> <p>県民スポーツ祭に併せたスポーツイベントの開催 (平成 26 年度 5 市町各 1 回)</p> <p style="text-align: center;"><b>17 市町各 1 回</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・冬季に屋内レクリエーションスポーツの体験会を開催し、スポーツに親しむ機会を提供します。</li> </ul>	<p>[成果等] 目標を達成しました。</p> <hr/> <p>県民スポーツ祭に併せ、全市町においてスポーツイベントを開催し、各市町における国体開催競技の紹介や国体デモンストレーションスポーツの体験会等を実施しました。</p> <p style="text-align: right;"><b>17 市町 25 回</b></p> <p>冬季には、大野市・勝山市において「冬季ファミリースポーツ体験フェスタ」を開催し、国体競技の体験会や 3 競技のスポーツ教室を開催しました。(721 人参加)</p>
<p>◇ 福井の文化をもっと身近に【部局連携】 ○文学館の新展開</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・著名作家や編集者が指導する「ふくい文学ゼミ」や文学ファン交流のための文学サロンを開催します。</li> </ul> <p>ふくい文学ゼミ修了者数 (平成 26 年度 一人)</p> <p style="text-align: right;"><b>10 人</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・日本近代文学館等と連携し、昭和の文豪をテーマに大型企画展を開催します。</li> </ul>	<p>[成果等] 目標を上回って達成しました。</p> <hr/> <p>文芸創作活動に興味・関心のある若い世代を対象に年間を通じて文章指導を行う「ふくい文学ゼミ」を新たに開講し、28 人が修了しました。</p> <p>また、作家と文学ファンの交流を目的に、宮下奈都氏等をゲストに迎えた「文学カフェ」を 4 回開催しました。159 人が参加して、福井ゆかりの文学ファン層を拡大しました。</p> <p style="text-align: right;"><b>28 人</b></p> <p>日本近代文学館と連携した高見順没後 50 年特別展をはじめ、本県ゆかりの作家・作品をテーマに企画展などを開催し、開館からの入館者数は 103,421 人となりました。</p>

項 目	実 施 結 果
<p>○子どもの文化・芸術活動</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>弦楽クラブを設置する学校を増やし、<b>小中高校における弦楽奏者を育成</b>します。</li> </ul> <p>小中高校における弦楽奏者数 (平成26年度 98人)</p> <p style="text-align: right;">140人</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>小学校で墨と越前和紙を活用した授業、中学校・高校で越前和紙と日本顔料等を活用した授業を実施し、<b>高校を中心に研究推進校を拡充</b>します。</li> </ul> <p>芸術教育(美術)推進校 (平成26年度 22校)</p> <p style="text-align: right;">35校</p>	<p>[成果等] 目標を達成しました。</p> <p>弦楽クラブを設置する学校を2校増やし、推進校を県内4地区全12校にしました。小・中・高校における弦楽奏者は57名増加して155名となり、一流の演奏家による指導機会を増やすとともに、新たに複数地区の児童・生徒による合同演奏会を開催しました。</p> <p style="text-align: right;">155人</p> <p>芸術教育(美術)の推進校を新たに13校指定し、授業公開には延べ223人の教員が参加しました。また、平成26年度に東京藝術大学に派遣した教員による美術教員を対象とした日本画等の研修を実施し、167人が参加しました。</p> <p style="text-align: right;">35校</p>
<p>○「こども歴史文化館」の充実と入館者アップ</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>特別展示室やコレクション広場を整備し、実物資料による子どもたちのふるさと学習を進めます。</li> </ul> <p>こども歴史文化館の来館者数 (平成26年度 53,259人)</p> <p style="text-align: right;">54,000人</p>	<p>[成果等] 目標を達成しました。</p> <p>特別展示室とコレクション広場のリニューアル工事を実施し、3月にリニューアルオープン記念展を開催しました。白山信仰や福井にまつわる妖怪の歴史を紹介したり、福井ゆかりの鉱物学者を珍しい鉱物とともに紹介したりするなど、魅力ある企画展を開催しました。</p> <p>また、かるた名人の誕生や選抜高校野球優勝など、時機を捉えて記念展を開催したほか、親子で楽しめるワークショップなどを開催し、来館者の増加を図りました。</p> <p style="text-align: right;">54,291人</p>

項目	実施結果
<p>◇ 福井が誇る歴史遺産の発信【部局連携】</p> <p>○国宝・重文の指定迅速化</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>文化財調査特別顧問の助言を得ながら、観光やまちづくりにつながる<b>文化財指定</b>を図ります。</li> <li>歴史的遺産を活用したまちづくりを進めている地区の建物等を調査し、伝統的建造物群の選定を目指します。</li> </ul> <p>文化財指定件数 (平成 23～26 年度の平均 9.5 件/年)</p> <p style="text-align: right;">10 件</p>	<p>[成果等] 目標を達成しました。</p> <p>国指定では、北前船主通りにある「中村家住宅」(南越前町)が重要文化財(建造物)に指定されました。また、県指定では、越前和紙の製作技術である「越前鳥の子」(越前市)や西福寺の「絹本著色放光菩薩像」(敦賀市)など、新たに10件の文化財を指定しました。このほか、国登録有形文化財に旧北陸線トンネル群など22件が登録されました。</p> <p>また、建造物分野では、国宝指定に向けた「丸岡城」(坂井市)の調査や重要文化財指定や重要伝統的建造物群選定に向けた事前調査を実施したほか、名勝分野においては、国指定に向け、「おくのほそ道の風景地(気比神宮)」(敦賀市)の測量調査を実施しました。</p> <p style="text-align: right;">11 件</p>

**【実施結果の区分】**

- ・目標を上回って達成しました。(例:成果が目標を概ね2割超えて達成されたもの)
- ・目標を達成しました。(例:成果が目標どおり達成されたもの)
- ・目標を一部達成しませんでした。(例:成果の一部が目標に及ばなかったもの)
- ・目標にはいたりませんでした。(例:成果が目標に及ばなかったもの)
- ・引き続き実施します。(例:成果を上げるためには年度を超えて実行する必要があるもの)